

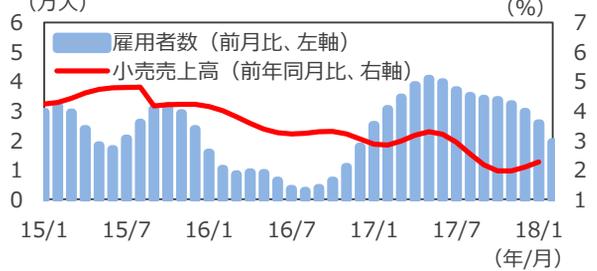
**今日のトピック** 拡大を続ける豪州経済（2018年3月）

**景気は堅調だが、物価の安定から金融政策は現状維持へ**

**ポイント1 景気は堅調に推移  
雇用が改善**

- 2018年2月の雇用者数は、月毎の変動を均したトレンド値で見て前月比1.9万人増となり、失業率を引き下げるのに必要とされる増加数+2万人程度とほぼ同じ水準を維持しました。
- 企業の景況感指数が高い水準にあること等から、雇用は今後も拡大を続ける見込みです。労働市場の改善に伴い、家計消費も持ち直してきました。

【豪州の雇用者数と小売売上高】

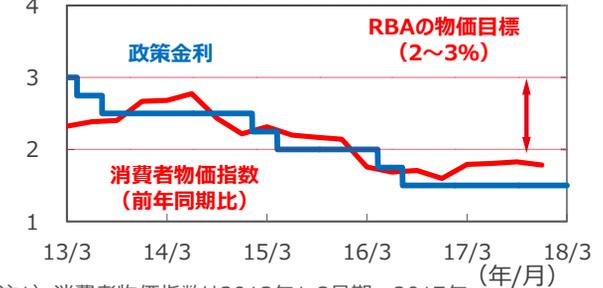


(注) データは雇用者数が2015年1月～2018年2月。小売売上高は2015年1月～2018年1月。ともにトレンド値。  
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2 金融政策は中立維持へ  
物価がRBAの目標値に未達**

- フリップ・ロウ豪州準備銀行（RBA）総裁は、今年3月、金融政策の次なる一手は利上げと述べ、その条件としてインフレ率+2.5%（RBAの目標レンジ+2%～+3%の中間値）の達成等を挙げています。ところが、直近17年10-12月期のインフレ率は、異常値をつけた項目を除外したトリム平均値で見て、前年同期比+1.8%にとどまりました。
- RBAは、3月6日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置きました。インフレの動向から判断すると、RBAは今後もしばらくは中立スタンスを維持する見通しです。

【消費者物価指数と政策金利】

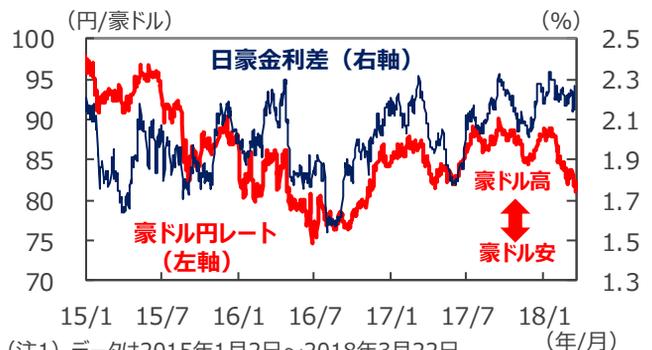


(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2017年10-12月期。消費者物価指数はトリム平均値。  
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2018年3月22日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開 豪ドルは今後、持ち直そう**

- 足元の豪ドルの対円相場は、軟調に推移しています。米国と中国との間で貿易摩擦が高まる可能性が浮上してきたこと等から、リスク回避の姿勢が強まったためです。当面は、米中関係の動きに左右される展開が予想されますが、堅調な豪州景気、日豪金利差等を踏まえると、持ち直しが期待されます。

【豪ドルの対円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年1月2日～2018年3月22日。  
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2018年3月 7日 豪州の金融政策は引き続き現状維持（2018年3月）  
2018年2月23日 堅調さを維持する豪州経済（2018年2月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。